

豊中市 南部地域 活性化基本計画

南部地域から“みらい”を

令和2年(2020年)2月

豊中市

もくじ

はじめに	1
1 南部地域とは	1
2 南部地域に関するこれまでの計画.....	2
3 南部地域活性化基本計画の位置づけ.....	3
第1章 南部地域の概況.....	4
1 南部地域における市民の意識	4
2 南部地域の地域特性	6
3 南部地域に関する計画	12
4 南部地域の構造.....	14
第2章 南部地域をとりまくこれからの動き.....	15
1 学校や公共施設の再編と跡地の利活用.....	15
2 ICT フィールド.....	16
3 新大阪駅周辺地域のまちづくり	17
第3章 まちの将来像.....	18
1 南部地域活性化のコンセプト	18
2 南部地域の活性化に向けたまちづくりの方向性	19
3 将来のまちの姿（ゾーニングと拠点施設）	20
第4章 計画推進のために.....	21
1 基本計画の見直し.....	21
2 目標と進行管理.....	21
3 学校跡地の個別活用計画との連動.....	21

はじめに

1 南部地域とは

- ・南部地域活性化基本計画（以下、「本計画」という。）において、南部地域とは、豊中市（以下、「本市」という。）の都市計画マスタープランで設定された地域区分で、名神高速道路以南の地域をさします。
- ・南部地域では、昭和45年（1970年）をピークに人口が減少に転じ、住環境・防災性向上などの地域課題に対応するため、住民参加のまちづくりや住環境整備を進めてきました。
- ・しかし、現在も人口減少、少子高齢化は進むとともに、生活・学習課題を抱える子どもの支援や公共施設の老朽化対策など、新たな課題にも直面しています。
- ・このような課題を解決し、未来を担う子どもたちが夢や希望を抱き、地域が一体となり活力あるまちづくりを進めるために、本市では、庄内地域における「魅力ある学校づくり」や（仮称）南部コラボセンターの開設に向けた取り組みなど様々な施策を進めています。



2 南部地域に関するこれまでの計画

- 平成 29 年（2017 年）12 月に策定した第 4 次豊中市総合計画前期基本計画において、南部地域が抱える緊急的な課題を乗り越え、もてる力を活かした魅力あふれるまちへと発展していくことが市全体の活性化にも寄与していくことから、本市ではリーディングプロジェクトとして南部地域活性化プロジェクトを位置付けました。
- これまでの取組みをふまえながら中長期的なまちづくりの方向性を示し、南部地域の課題解決と活性化に向けた様々な施策を一体的に推進し取組みにつなげるものとして、平成 30 年（2018 年）1 月に「南部地域活性化構想」（以下、「構想」という。）を策定しました。
- 構想では、これまでの取組みと市民の皆さんからいただいたキーワードをふまえ、活性化の柱を「子どもたちの元気があふれるまちづくり」「誰もが安全に安心して暮らせるまちづくり」「にぎわいとゆとりのあるまちづくり」の 3 つにまとめ、柱ごとに目標を掲げて「わたしたちが思い描くまち」の実現に取り組むことを決めました。



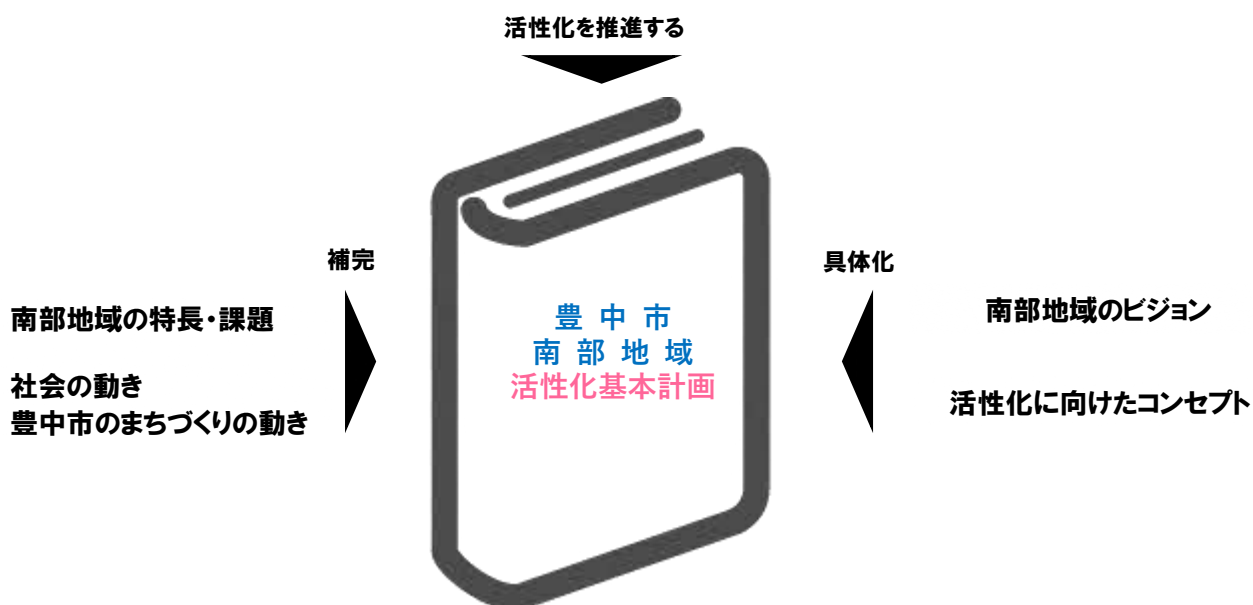
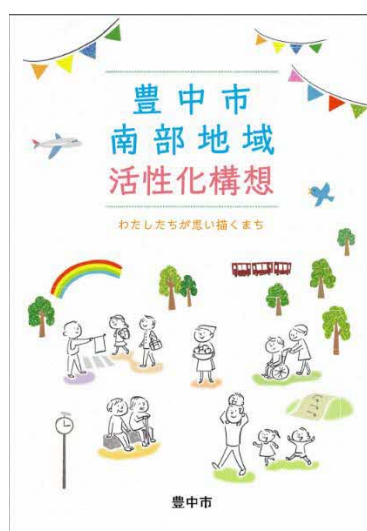
第 4 次豊中市総合計画前期基本計画
【南部地域活性化プロジェクト】

南部地域活性化構想
【3つの柱と目標】

※リーディングプロジェクト：第 4 次豊中市総合計画前期基本計画において取り組む各施策の事業のうち、特に重点的かつ総合的に取り組む事業。

3 南部地域活性化基本計画の位置づけ

- ・ 本計画は、現状分析結果をふまえ、これからの社会の動向や潮流を見据えながら、学校や学校跡地を中心とした地域の魅力を分かりやすくPRし、未来に向けた南部地域の新たな魅力や価値を打ち出す「まちの将来像」を描き、構想を推進することを目的とするものです。
- ・ 目的の達成に向けては、行政をはじめ、市民や地域の各種団体、企業、NPO、大学など多様な主体による協働のもと、構想の具体化に向けた取組みを計画的に推進していきます。
- ・ まちの将来像は、構想を推進する具体的な施策（(仮称)南部コラボセンターの開設や義務教育学校の開校、跡地の活用）により活性化が進んでいると考えられる約20年後の南部地域の姿を見据えています。

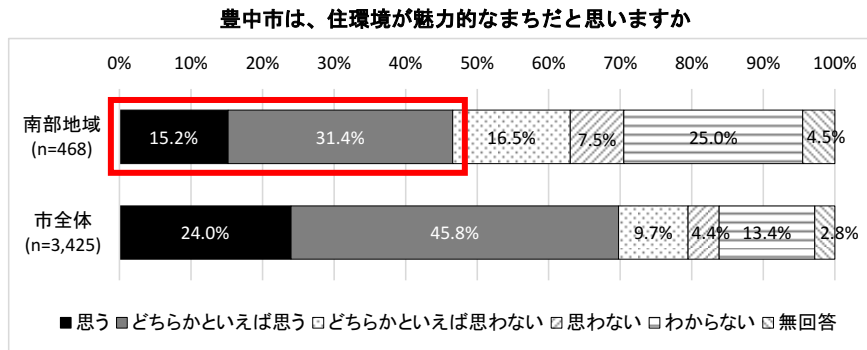


※義務教育学校：「学校教育法等の一部を改正する法律（平成27年法律第46号）」（平成27年（2015年）6月24日公布、平成28年（2016年）4月1日施行）により創設された新しい種類の学校で、一人の校長の下、一つの教職員組織として、義務教育9年間で一貫した教育課程を編成・実施する。

第1章 南部地域の概況

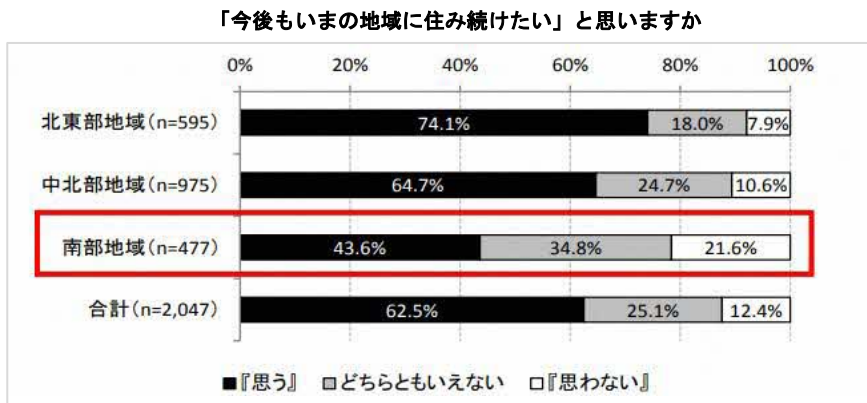
1 南部地域における市民の意識

- 平成 29 年度（2017 年度）豊中市市民意識調査（豊中市在住の満 18 歳以上の男女、8,000 人を対象）によると、住環境が魅力的なまちだと「思う」「どちらかといえば思う」の合計は、市全体では 69.8%であるのに対して、南部地域では 46.6%と低くなっています。



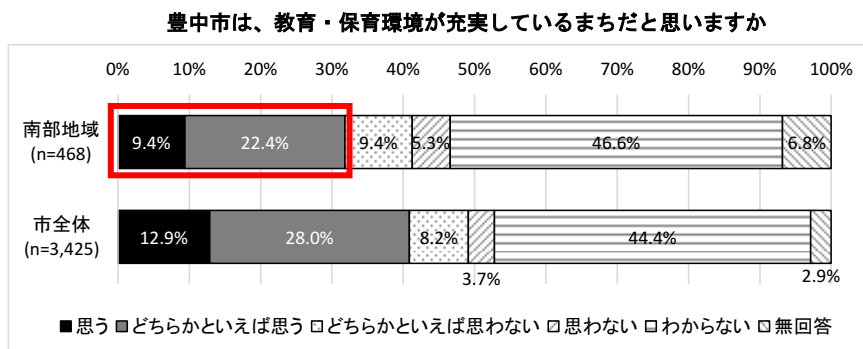
資料：平成 29 年度豊中市市民意識調査（豊中市）

- 今後もいまの地域に住み続けたいと「思う」の割合についても、市全体では 62.5%であるのに対して、南部地域では 43.6%と低くなっています。



資料：南部地域の活性化に向けた調査研究Ⅰ「豊中市の若い世代の意識と行動に関するアンケート調査」（豊中市）

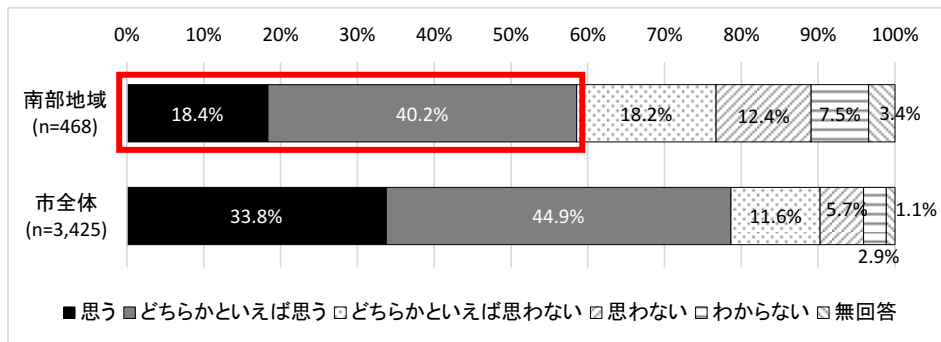
- 豊中市は教育・保育環境が充実しているまちだと「思う」「どちらかといえば思う」の合計は、市全体では 40.9%であるのに対して、南部地域では 31.8%と低くなっています。



資料：平成 29 年度豊中市市民意識調査（豊中市）

- ・ 周辺の身近なみどりに満足しているかについては、「思う」「どちらかといえば思う」の合計は、市全体では 78.7%であるのに対して、南部地域では 58.6%と低くなっています。

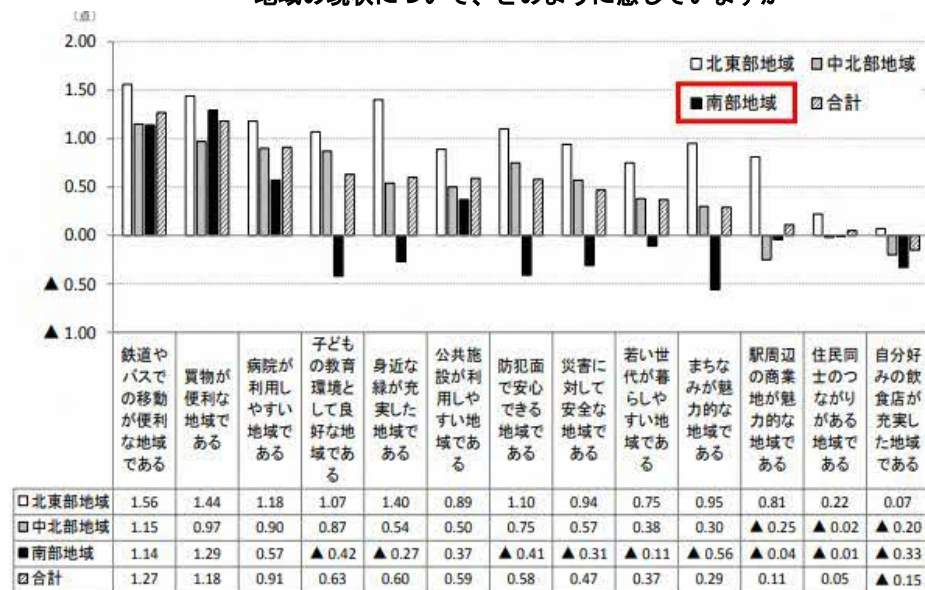
現在お住まいの周辺の身近なみどりについて満足していますか



資料：平成 29 年度豊中市市民意識調査（豊中市）

- ・ 18~39 歳を対象とした若い世代の意識と行動に関するアンケート調査においても、子どもの教育環境や防犯、まちなみ、身近な緑など評価が低い項目が多く、子育て世帯が転出している要因の一つと言えます。（※子育て世帯の転出については、P6 南部地域における直近 5 年間の転出入超過状況を参照ください。）

地域の現状について、どのように感じていますか



資料：南部地域の活性化に向けた調査研究 | 「豊中市の若い世代の意識と行動に関するアンケート調査」(豊中市)

※北東部地域：千里ニュータウン及び上新田からなる千里緑地以東の地域

※中北部地域：阪急宝塚線沿線地域で千里緑地以西及び府道旧大阪中央環状線以北の地域

2 南部地域の地域特性

1 人口動態

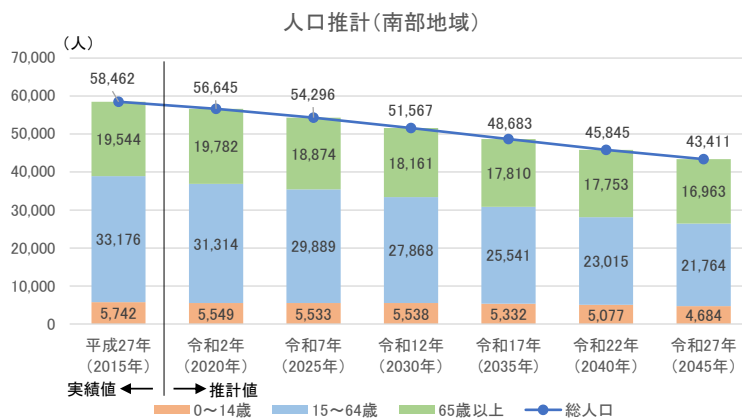
20歳代の転入者が多い一方で、0～9歳・30～40歳代の人々が市内・市外へと転出し、人口減少が進行しています。結婚や出産にともなう「子育て・子育て」という新たなライフステージで選ばれるようなまちづくりを進める必要があります。

○ 特長

- ・ 20歳代で市外からの転入者が多く、通勤や通学に便利な環境として選ばれる傾向があります。

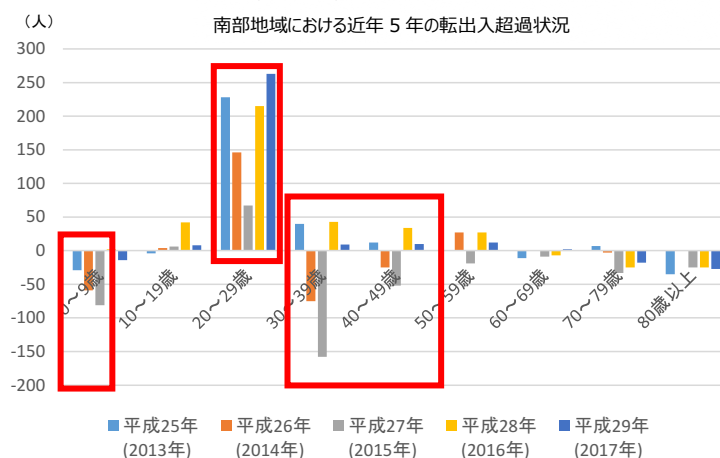
✓ 課題

- ・ 本市全体では、人口は好調に増加していますが、南部地域の人口は減少傾向が顕著です。
- ・ 少子高齢化も進んでおり、老年人口が33.2%（本市全体25.3%）、年少人口が9.7%（本市全体13.6%）となっています。
- ・ 令和22年（2040年）の将来人口は、本市全体では約40万人で推移します。一方で、南部地域は約4万6千人まで減少する見込みです。
- ・ 本市全体では、0～4歳及び20～40歳代が転入超過である一方、南部地域の子育て世帯（0～9歳及び30～40歳代）は市内・市外に転出超過の状態です。



南部地域の将来人口

資料：平成27年（2015年）国勢調査をもとに、出生率中位×純移動率高位にて推計（豊中市）



南部地域における直近5年間の転出入超過状況

資料：豊中市住民基本台帳（豊中市）

2 用途地域と土地利用

住宅だけでなく、ものづくり企業など事業所の集積度が高く、職住が近接した市街地が形成されています。

○ 特長

- ・ 住宅系市街地は南部地域全体の広い範囲に及んでいますが、工業系市街地は主に都市計画道路（以下、「(都)」と表記）神崎刀根山線の沿道や豊中 IC 西側に集積しています。
- ・ 本市内で唯一、用途地域として工業地域が指定されています。



用途地域図

(平成 29 年 (2017 年) 3 月 25 日時点)



土地利用現況図

(平成 28 年 (2016 年) 時点)

資料：豊中市立地適正化計画 (平成 31 年 (2019 年) 1 月) (豊中市)

3 産業

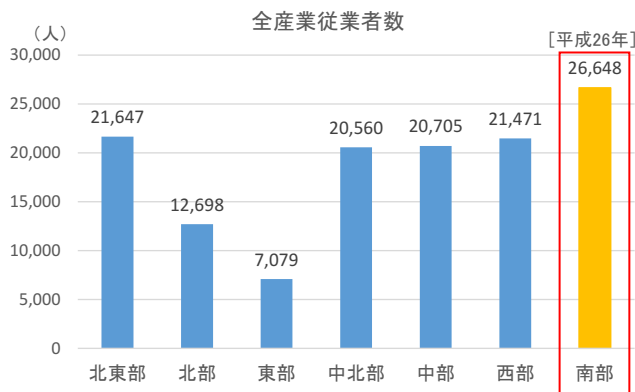
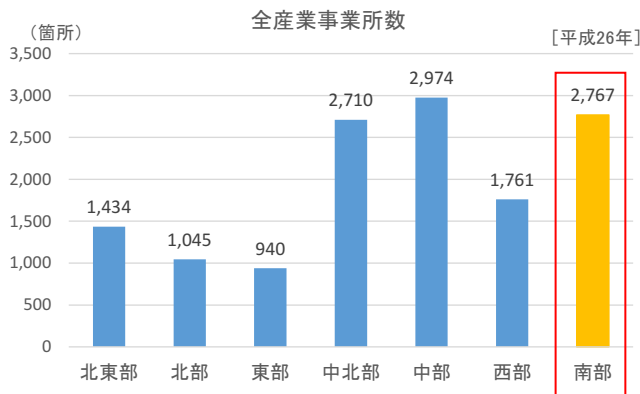
産業の集積度は本市内の中でも高いが、住宅との混在も見られます。地域特性や年々進む人口減少、少子高齢化に対応した産業構造へと転換することが求められています。

○ 特長

- ・ 南部地域の事業所数は、本市内で中部地域に次いで 2 番目に多く、従業者数は本市内の地域別で最も多くなっています。
- ・ (都) 神崎刀根山線沿いや (都) 三国塚口線・(都) 大阪南池田線の周辺に工業・運輸系事業所が集積しています。

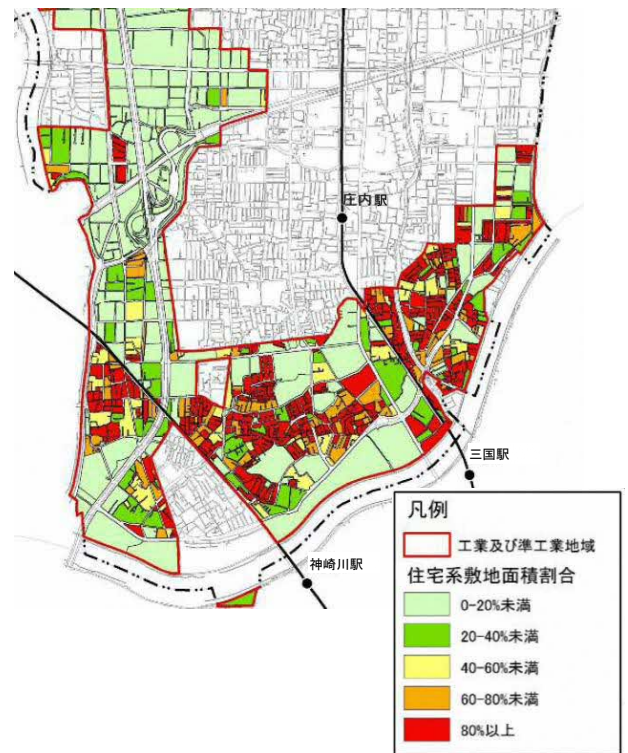
✓ 課題

- ・ 工業地域・準工業地域のうち、豊中 IC 付近や (都) 神崎刀根山線沿い以外の部分は住宅系の敷地面積割合が高く、工場と住宅が混在している状態です。



地域別全産業事業所数及び事業者数

資料：「平成 26 年経済センサス」より作成



街区別 (工業地域・準工業地域) 土地利用割合

資料：豊中市立地適正化計画 (平成 31 年 (2019 年) 1 月)

4 生活利便性

大型小売店舗などの生活利便施設が充実しているとともに、都心部や空港・新幹線へのアクセスのよさなど、本市内でも高い利便性を備えています。

○ 特長

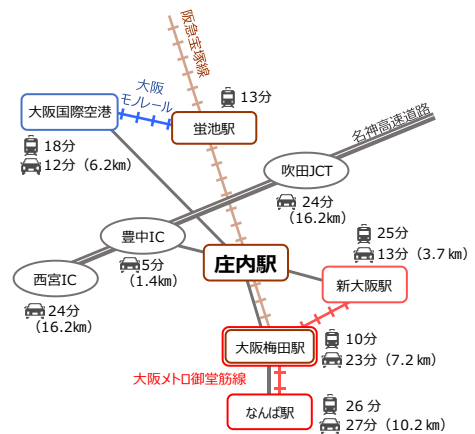
- ・ 庄内駅を中心に商店街や豊南市場などの界限性を持った商業・業務系の事業所が分布し、特に、小売業の集積は本市内で庄内駅が最も高くなっています（平成 26 年経済センサス - 基礎調査）。
- ・ 庄内駅周辺は、昼夜間人口指数（※）が 1.0 を超えるなど、本市に位置する鉄道駅の中でも拠点性が高い地域です。
- ・ （都）神崎刀根山線や、南部地域の防災ラインとなる（都）穂積菰江線や（都）三国塚口線など、都市機能を支える交通ネットワークの整備が進行中です。
- ・ 南部地域は本市で最も大阪市寄りに位置し、車やバス、鉄道在来線のみならず新幹線の停車駅である新大阪も近く、市外・府外へのアクセス性に優れた地域です。

✓ 課題

- ・ 公園や児童遊園、図書館、健康福祉施設、文化施設など複数の公共施設が整備されていますが、多くの施設で老朽化が進行しています。



南部地域の商業施設等の分布



庄内駅からの主要交通アクセス

※昼夜間人口指数：夜間人口（常住人口）に対する昼間の人口の比率。1.0 を超えるとその地域が周辺地域にとって中心的な場所であることを示す指標。

5 住まい

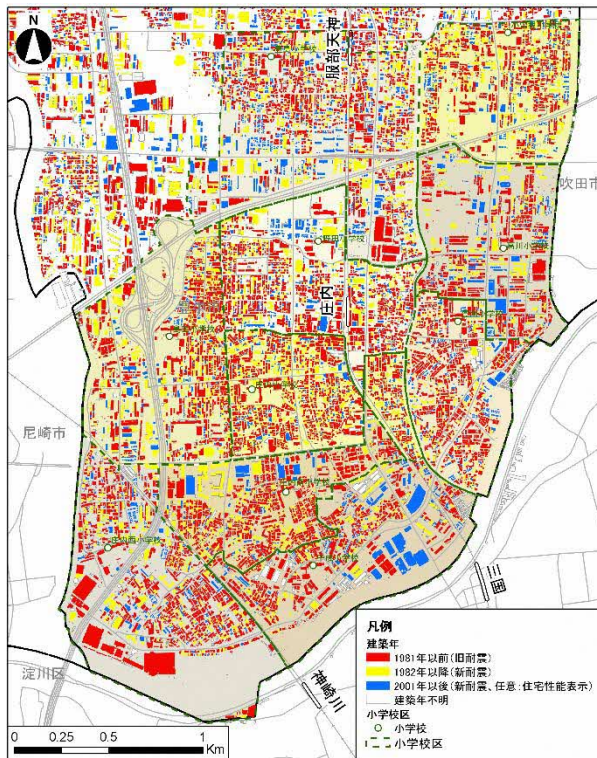
年数の経過した木造建築物などが集積し、幅員の狭い道路で構成される地域が多く、防災面での課題を解消し、住宅地としての価値を向上させる必要があります。

○ 特長

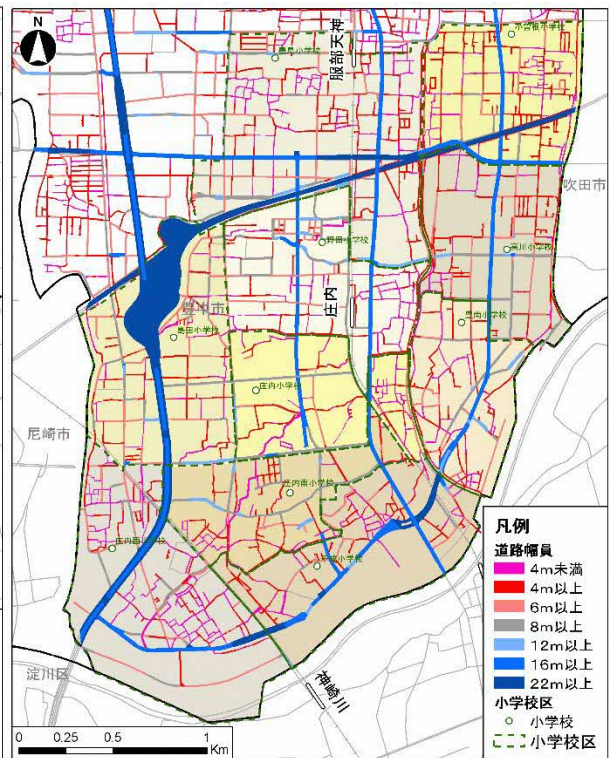
- ・ 地域全体的に、土地の起伏は小さく、平坦です。

✓ 課題

- ・ 住宅地の地価は、南側ほど下降傾向にあります。
- ・ 旧耐震基準（昭和 56 年（1981 年）以前に建築）の木造建築物が全体の半数以上を占め、不燃領域率（※）が低い町丁目も多いです。
- ・ 幅員の狭い道路や築年数の経過した長屋や文化住宅が多く、消防活動が困難な区域があります。



建築物と耐震基準の関係



南部地域における道路幅員

資料：「豊中市庄内・豊南町地区住環境整備計画」（平成 31 年（2019 年）3 月より作成

※不燃領域率：市街地大火の危険性を判定する上で重要な指標で、市街地の「燃え広がりにくさ」を表すもの。建物の不燃化や道路、公園などの空地の状況から算出します。不燃領域率が 40%以上で焼失率は、20~25%程度と急激に低下し、不燃領域率が 70%を超えると市街地の焼失率はほぼ 0 となります。

6 教育環境と地域コミュニティ

小中学校の児童・生徒数が減少する中、学校規模については子どもたちが多様な出会いにより様々なものの見方や考え方、価値観に触れることができる規模の確保が必要です。地域では昔ながらの地域行事や様々な活動が行われている一方で、担い手の不足や多様化、複合化する課題に合わせた取組みの充実が求められています。

○ 特長

- ・ 南部地域には小学校 8 校、中学校 3 校の他、大阪音楽大学・短期大学が立地しています。
- ・ 長屋という距離感で生まれるご近所付き合いの風土や、庄内神社や椋橋総社、洲到止八幡宮、長島住吉神社のお祭り、庄内バルや南部フェスティバルなどの地域特有の風景となるようなイベントが実施されています。
- ・ 地域自治組織が 2 つの小学校区で設置されており、防災など地域課題の解決に向けた取組みの充実が進められています。

✓ 課題

- ・ 庄内地域の児童・生徒の数は、小学校は昭和 47 年（1972 年）、中学校は昭和 53 年（1978 年）をピークに減少し、小規模校化が進行しています。
- ・ 将来に向けた地域課題の解決するため、活動の担い手の確保や、自治会等の地縁団体、NPO、事業者といった多様な主体が協働した取組みを進める必要があります。



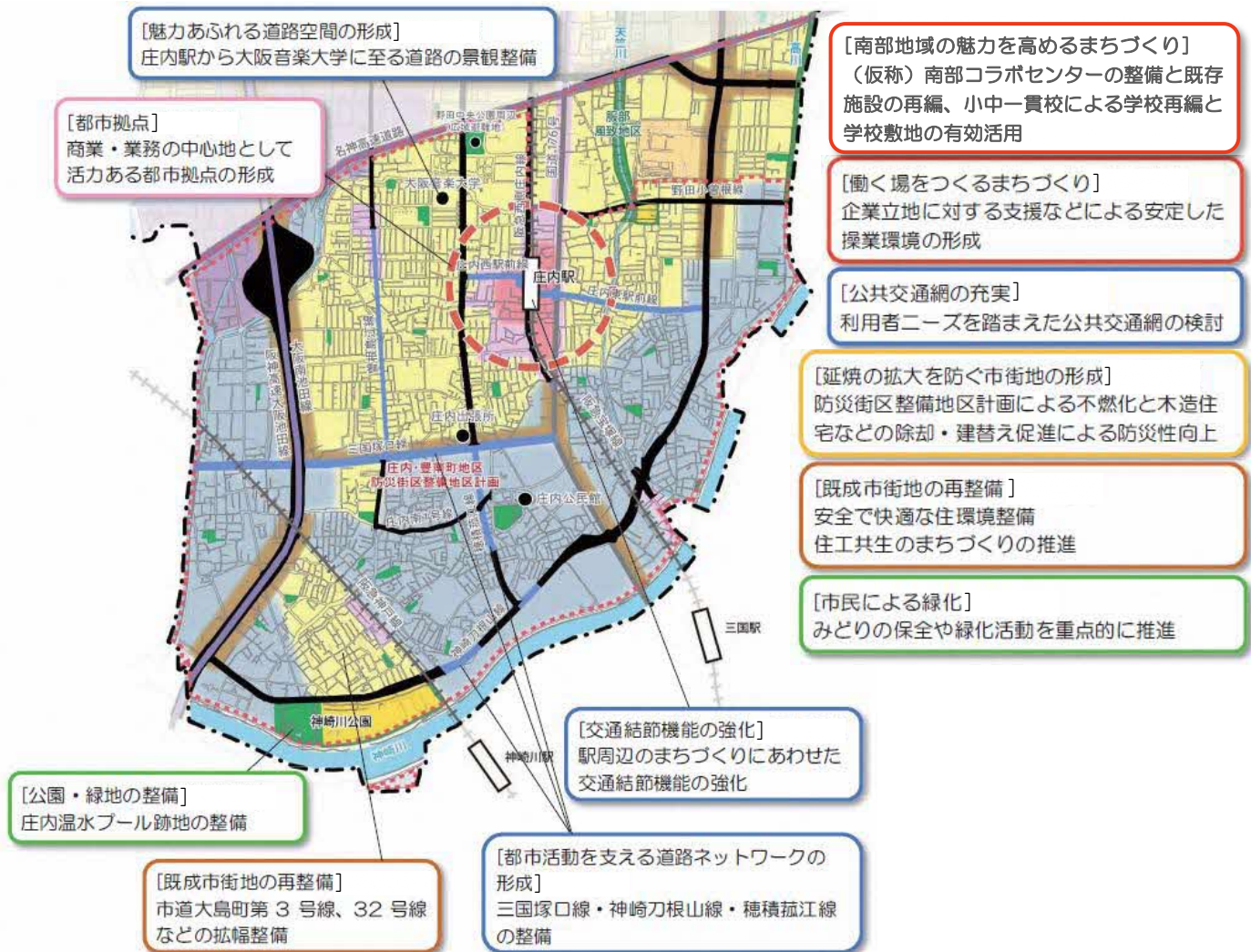
平成 25 年度（2013 年度）以降の豊中市及び庄内地域における児童・生徒数の推移

資料：庄内地域における「魅力ある学校」づくり計画 資料編（平成 29 年（2017 年）8 月）（豊中市）

3 南部地域に関する計画

1 都市計画マスタープラン

- 第2次豊中市都市計画マスタープラン（平成30年（2018年）4月）に示す「都市づくりの方針」のうち、南部地域に係る主な項目は以下のとおりです。



2 立地適正化計画

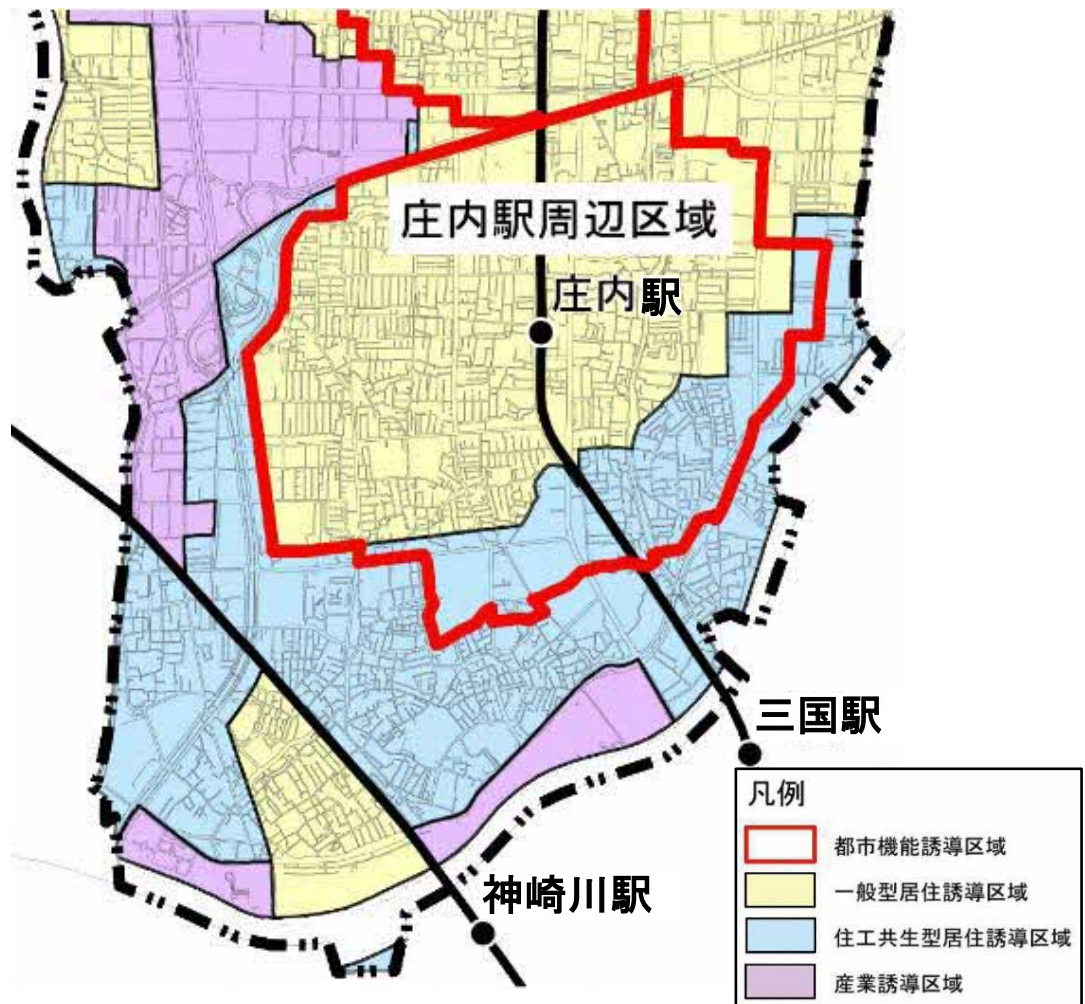
- ・本市では、人口減少と少子高齢化が進行していくなかで、今後、コンパクトな都市づくりを推進するため、平成31年（2019年）1月に「豊中市立地適正化計画」を策定しました。
- ・立地適正化計画では、南部地域の人口減少と少子高齢化の進行の改善のため、子育て世帯をターゲットに、公共施設の再編や学校再編により、子育て、教育環境の充実を図り、安心して子育てができるまちづくりをめざすものとしています。
- ・それぞれの誘導区域は、地域の特性をふまえて設定しています。

○主に（都）三国塚口線以北：居住の誘導を図る「一般型居住誘導区域」

○主に（都）三国塚口線以南：住宅と事業所の共生をめざす「住工共生型居住誘導区域」

○庄内駅周辺：子育て支援機能の充実等を促す「都市機能誘導区域」

○豊中ICの西周辺、神崎川沿い：事業所の立地を誘導する「産業誘導区域」

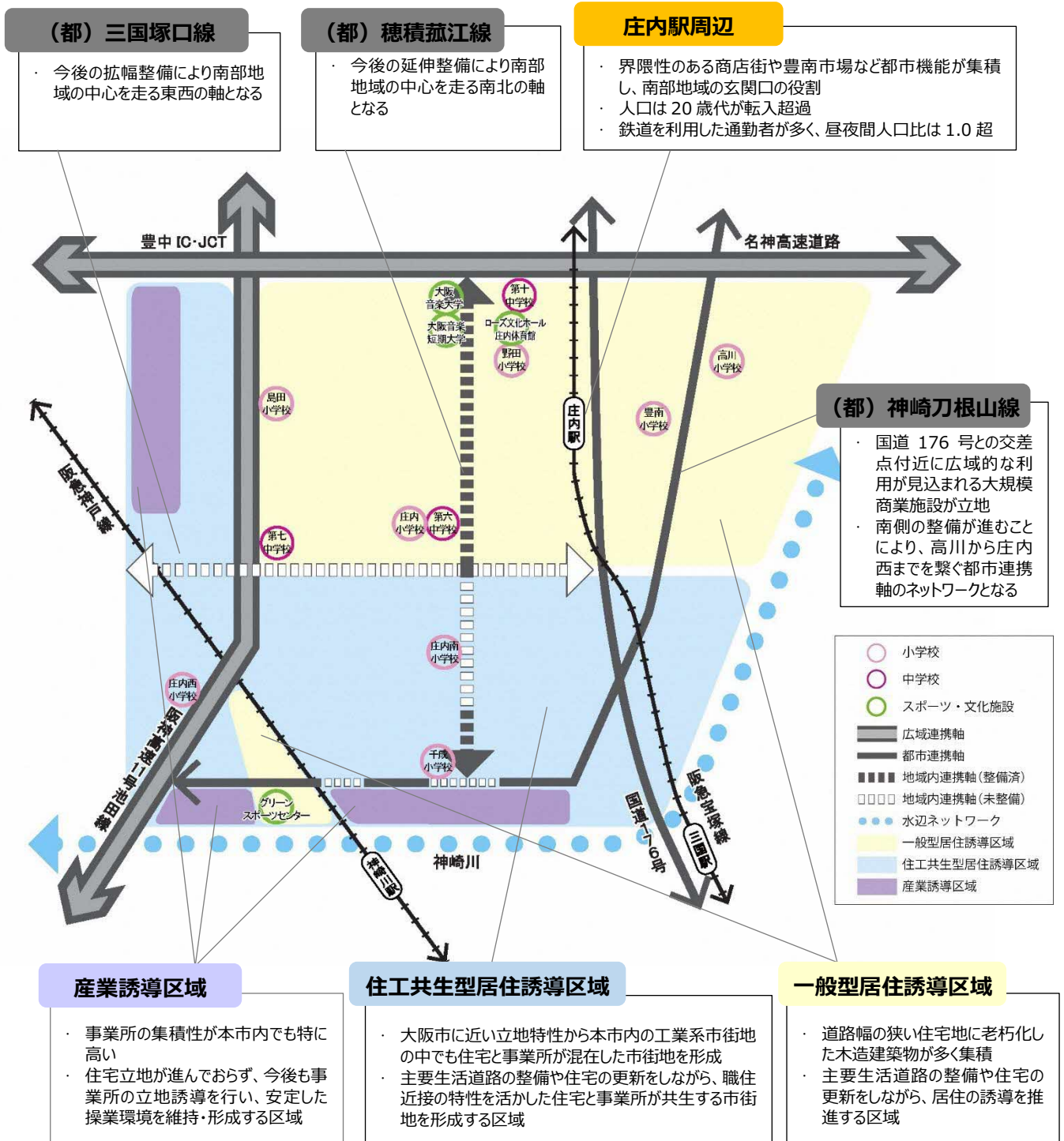


立地適正化計画における南部地域の誘導区域

資料：豊中市立地適正化計画（平成31年（2019年）1月）（豊中市）

4 南部地域の構造

- 南部地域の地域特性やこれまでの道路などの整備状況をふまえると、南部地域は以下のようなまちの構造となっています。



2 ICT フィールド

- ICT (Information and Communication Technology : 情報通信技術) の発展により、さまざまなモノがインターネットへつながる IoT (Internet of Things : モノのインターネット) 時代が到来しています。
- ICT 等の新しい技術の活用は、まちづくりの分野でも応用や研究開発が期待されており、国土交通省では、都市の抱える課題を ICT 等を用いて解決していく「スマートシティ」を実現していくことをめざしています。
- 本市では、国のめざすまちづくりの方向性を見据えながら、地域が抱える課題を ICT などの新しい技術やサービスを活用して解決していくようなまちづくりをめざし、令和元年 (2019 年) 8 月に「経営戦略方針」を策定し、南部地域全体を「ICT フィールド」と位置付けました。
- 今後、ICT フィールドとしての位置づけに基づき、南部地域では本市の中で実証的な取り組みや最先端技術の活用等を積極的に取り組んでいくことを検討しています。

スマートシティの実現に向けて【中間とりまとめ】

スマートシティの実現に向けて【中間とりまとめ】の策定にあたって

- 「Society5.0」(超スマート社会)の提唱など、イノベーションの進展による経済社会構造の大きな変革が世界的潮流として進行中、都市行政において新技術をどのように取り込み、都市の課題解決に向けて、より高度で持続可能な都市を実現するために、何が必要かを検討し、社会実装に向けた動きを進める必要

「未来投資戦略2018—「Society 5.0」「データ駆動型社会」への変革—」(平成30年6月15日閣議決定)

- ・まちづくりと公共交通・ICT活用等の連携によるスマートシティ
- ・まちづくりと公共交通の連携を推進し、次世代モビリティサービスやICT等の新技術・官民データを活用した「コンパクト・プラス・ネットワーク」の取組を加速するとともに、これらの先進的技術をまちづくりに取り入れたモデル都市の構築に向けた検討を進める

- スマートシティの全体像を描き、目指すべき将来像、取組みの方向性を示すことで、各都市の課題解決に向けた取組みの推進、民間企業の技術のまちづくりへの応用や研究開発等が進むことを期待して本中間とりまとめを作成

スマートシティ

⇒ 都市の抱える諸課題に対して、ICT等の新技術を活用しつつ、マネジメント(計画、整備、管理・運営等)が行われ、全体最適化が図られる持続可能な都市または地区

<div style="background-color: #e0f0ff; padding: 2px; font-weight: bold; font-size: small;">Mobility 交通</div> <p style="font-size: x-small; margin: 0;">公共交通を中心に、あらゆる市民が快適に移動可能な街</p>	<div style="background-color: #e0ffe0; padding: 2px; font-weight: bold; font-size: small;">Nature 自然との共生</div> <p style="font-size: x-small; margin: 0;">水や緑と調和した都市空間</p>	<div style="background-color: #fff9c4; padding: 2px; font-weight: bold; font-size: small;">Energy 省エネルギー</div> <p style="font-size: x-small; margin: 0;">パンプ・アクティブ両面から建物・街区レベルにおける省エネを実現 太陽光、風力など再生可能エネルギーの活用</p>	<div style="background-color: #ffe0e0; padding: 2px; font-weight: bold; font-size: small;">Safety & Security 安全安心</div> <p style="font-size: x-small; margin: 0;">災害に強い街づくり・地域コミュニティの育成 都市開発において、非常用発電機、備蓄倉庫、避難場所等を確保</p>	<div style="background-color: #e0ffe0; padding: 2px; font-weight: bold; font-size: small;">Recycle 資源循環</div> <p style="font-size: x-small; margin: 0;">雨水等の貯留・活用 排水処理による中水を植栽散水等に利用</p>
--	---	---	---	--

図 中間とりまとめにおけるスマートシティの定義

まちづくりへの ICT 活用のイメージ

資料：スマートシティの実現に向けて【中間とりまとめ】(平成30年(2018年)8月)(国土交通省)

第3章 まちの将来像

1 南部地域活性化のコンセプト

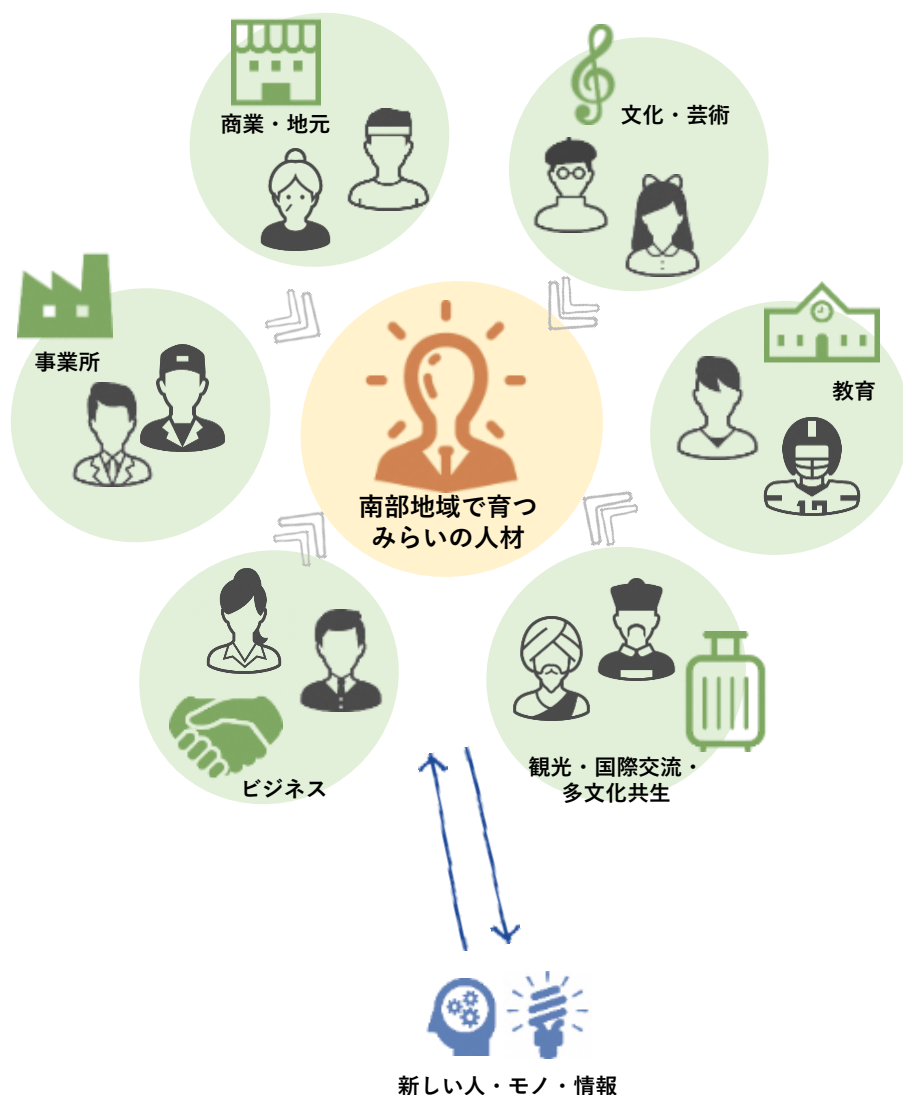
心地よくなって、個性豊かで、新しい！
豊中の“南の玄関口”は、新しいことにチャレンジする
次の時代の人材を育てる“みらいへの玄関口”

豊中の“南の玄関口”、南部地域。

都心近くに位置しながら、界隈性のある商店街と事業所が交わるまちなみ、温かい人々は、どこかホッと落ち着ける心地よさを兼ね備えています。

そんな“南の玄関口”は、暮らしや仕事のヒントになる時代の変化を敏感にキャッチして、新しいチャレンジを始めるスタート地点としても抜群の場所。

ずっと住んでいる人からも、ここで育ち、巣立った人からも、そして新たな暮らし・チャレンジを始める人からも、選ばれるまちへ。



2 南部地域の活性化に向けたまちづくりの方向性

- ・ 南部地域活性化のコンセプトを実現するため、本市では以下のようなステップでまちづくりを進めていきます。

ステップⅠ

特色ある学びのフィールドと地域の連携を進める

- ・ 義務教育学校である（仮称）庄内さくら学園、（仮称）南校の開校を契機に、大阪音楽大学や地域内の事業所等との連携を進め、子どもたちの学びの場としての環境と魅力を向上させます。
- ・ （仮称）南部コラボセンターを核に多世代・多文化の交流ができるような場を創出するとともに、地域のつながりと最先端技術を活かした子育て・子育てを支援する仕組みを構築します。
- ・ 「ICT フィールド」として、最先端技術を教育や保育分野に活用し、地域や市内外、さらには海外との連携も視野に入れた特色ある学びのフィールドとなることをめざします。
- ・ 現在の小学校区単位の地域コミュニティを大切にしながら、多世代や多様な主体との連携によるコミュニティの強化を推進します。

ステップⅡ

地域の拠点や核をつなげ、人を呼び込む機能を高める

- ・ 庄内駅周辺や幹線道路沿道など既存の商業・サービス施設の集積を維持・強化しながら地域外・市外、さらには海外からの来訪者も含めたにぎわい創出を誘導し、地域生活の拠点として機能します。
- ・ 義務教育学校や（仮称）南部コラボセンターなどの新しい拠点の設置や、公共施設の再編により生じる跡地への新たな機能の導入により、地域の拠点や核としての役割を発揮させます。
- ・ （都）穂積菰江線と（都）三国塚口線の整備やその他の未整備の都市計画道路の整備を進めるとともに、阪急宝塚線の服部天神駅以南の区域について、鉄道と交差する東西方向の道路の円滑化や駅へのアクセス性の向上だけでなく、安全で快適な交通環境を実現するため、連続立体交差化事業をはじめ、さまざまな検討を進めます。
- ・ 南部地域内を東西・南北に繋げる地域内連携軸を整え、地域の拠点・核を結び、新大阪など周辺部からも人を呼び込むネットワークを強化します。

ステップⅢ

様々なライフスタイルが実践でき、住み続けたい環境をつくる

- ・ 立地適正化計画に位置付けられた「一般型居住誘導区域」は、災害に強く、より安心して暮らせる地域として、子どもを産み、育てやすい住環境を充実し、子育て世帯の定住を促進します。
- ・ 「一般型居住誘導区域」以外の区域では、新大阪駅に近く、将来的なりニア新幹線の開通も見据え、起業やフリーランスなど雇用関係によらない柔軟な働き方や、新しい暮らし方を志向する層が増えることが期待されるため、自由で創造的なライフスタイルの実践を促します。
- ・ 「ICT フィールド」として南部地域全体の防犯や防災、さらには、医療・福祉といった生活面での安全・安心を ICT 技術の活用により高めるとともに、歴史ある産業と新しい技術産業の操業環境を整え、産業のまちとしての価値を高めます。

第4章 計画推進のために

1 基本計画の見直し

- ・本計画を推進していくにあたっては、設定した都市構造やゾーニングを進める各種施策・事業の進捗状況との連動が不可欠なことから、短期（5年）、中期（10年）、長期（20年）を概ねの計画期間とします。
- ・今後南部地域のまちづくりの進捗状況や社会情勢の変化に応じて、本計画の見直し等を行うこととします。

2 目標と進行管理

- ・本計画は、約20年後のみらいを見据えた将来像を描き、構想を推進するまちづくりのステップに取り組むことで、将来像を実現していくことをめざしています。
- ・義務教育学校や（仮称）南部コラボセンター等による拠点施設の整備、交通ネットワークの充実、学校跡地の有効活用などにより、本計画で描いた将来像を実現したみらいの南部地域では、人口減少・高齢化に歯止めをかけ、子育て世帯を呼び込んだ適正な人口構成になっていくと考えています。

目標指標	現状値	目標値		
		短期（5年）	中期（10年）	長期（20年）
南部地域の人口	58,462人	→ 維持	→ 維持	維持

目標指標	現状値	目標値		
		短期（5年）	中期（10年）	長期（20年）
南部地域の高齢化率	33.2%	→ 低下	→ 低下	市平均

目標指標	現状値	目標値		
		短期（5年）	中期（10年）	長期（20年）
全年少人口に対する南部地域の年少人口の割合	10.6%	→ 向上	→ 向上	12.3%

3 学校跡地の個別活用計画との連動

- ・南部地域の活性化を推進するこれからの展開に向けては、本計画に基づき、地域全体として確保すべき機能や新たに導入すべき機能を整理していきます。
- ・学校再編により生まれた跡地の利活用にあたっては、本計画と連動させながら、効果的な活用ができるように各敷地で個別の活用計画を定め、検討を進めていきます。